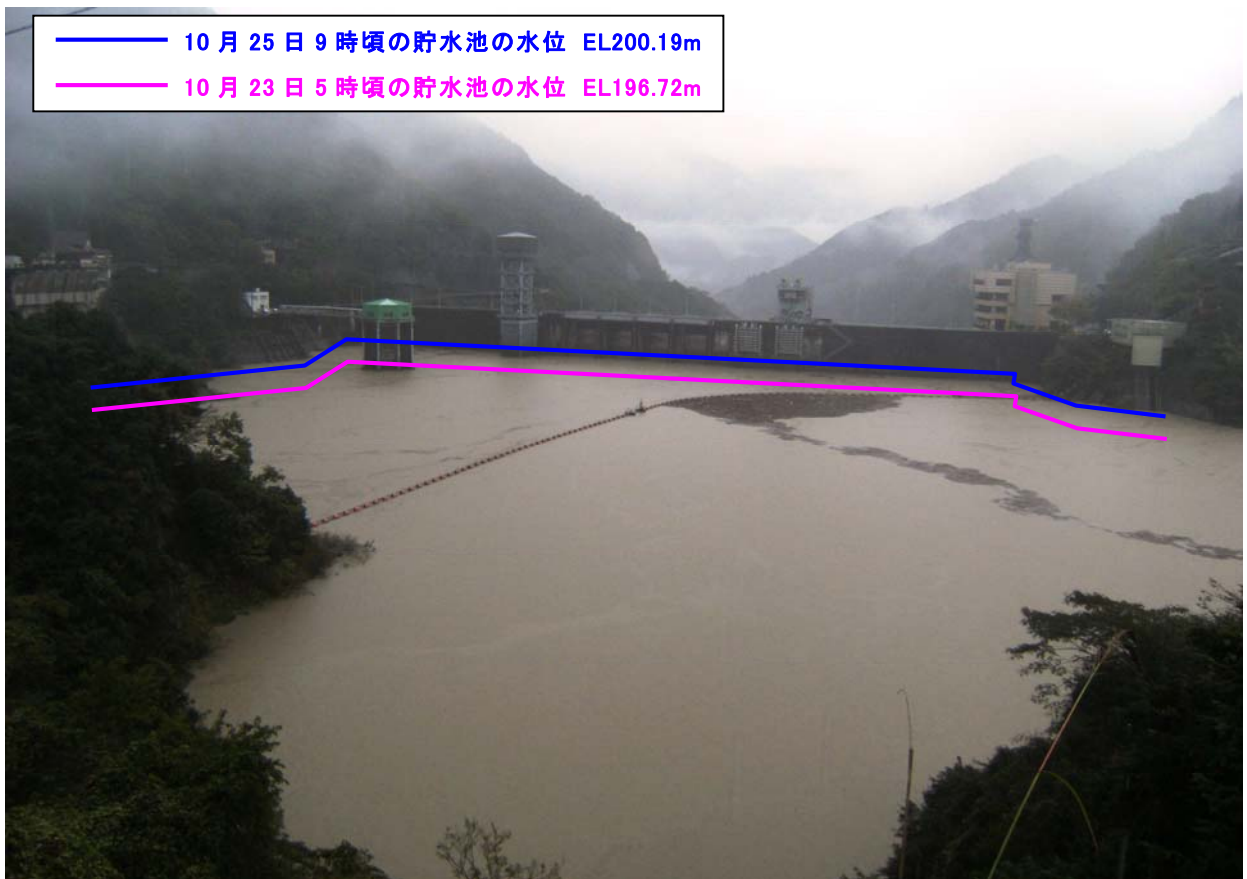


平成25年10月25日

## 台風27号における大渡ダムの洪水貯留について（速報）

仁淀川流域では、台風27号及び前線の接近に伴い、激しい豪雨をもたらしました。大渡ダムでは今年2度目となる防災操作となり、洪水貯留を行い効果をあげました。



【10月25日9時頃の大渡ダム茶霧湖の様子】

<問い合わせ先>

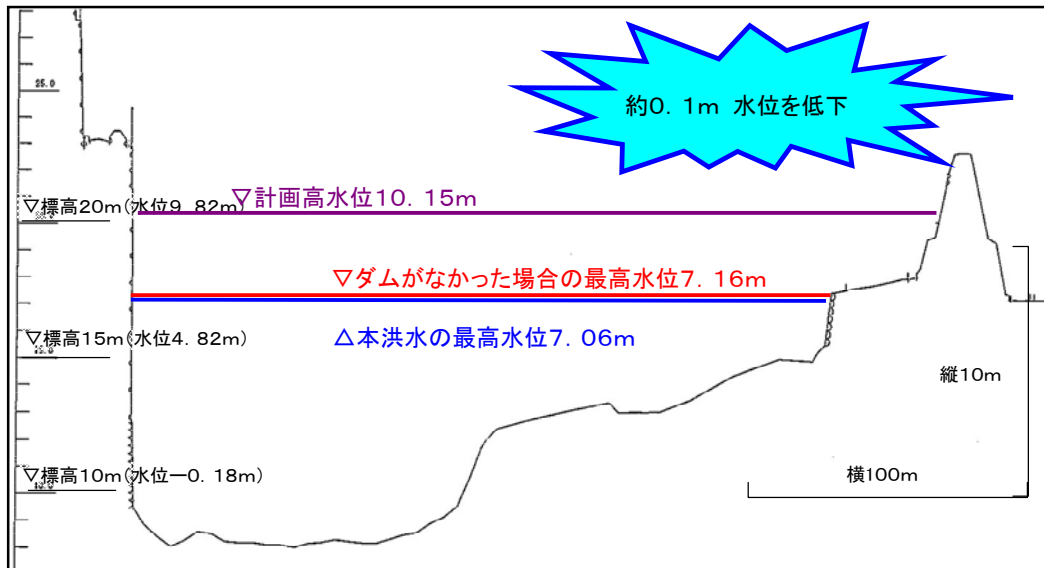
国土交通省 四国地方整備局 大渡ダム管理所  
管理所長 赤松 薫（あかまつ かおる）  
管理第一係長 藤本 章次（ふじもと しょうじ）  
TEL 0889-32-2120

# 平成25年 台風27号出水における大渡ダムの洪水貯留効果

(流出規模: 大渡ダム最大流入量約2,570m<sup>3</sup>/s)

## 伊野地点における大渡ダムの洪水貯留効果

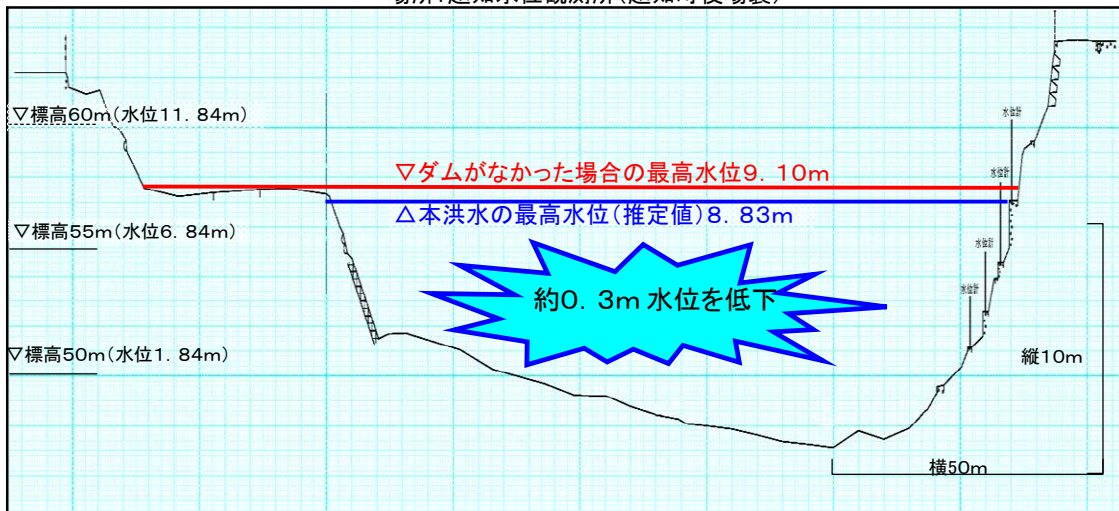
場所: 伊野水位観測所(一般国道33号仁淀川橋上流)



※上記の水位低下効果はダムによる洪水貯留が、各地点で発現した場合の推定値です。

## 越知における大渡ダムの洪水貯留効果

場所: 越知水位観測所(越知町役場裏)



※上記の水位低下効果はダムによる洪水貯留が、各地点で発現した場合の推定値です。  
 ※越知水位は台風17号により観測所が被災し、閉鎖していたため過去の実績による推定値です。



## 1. 経緯

今回の台風27号は10月16日21時に発生し、北西方向にゆっくりとした速度で移動、沖縄付近で北東方向に進路を変え、その後もあまり速度を上げずに移動しています。

台風27号及び前線による豪雨のため、ダムへの流入量が増加し、10月25日3時頃に防災操作による洪水貯留を開始する流量(2,100m<sup>3</sup>/s)に達したため、ダムの容量を利用し、洪水貯留を開始しました。

## 2. 上流域の雨量

○大渡ダム上流域の総雨量 約303mm (降り始め10月23日5時~10月25日11時)

○上流域最大時間雨量 26.0mm (25日 2~3時)

## 3. 洪水貯留の効果

今回の台風による大渡ダム地点への流入量は毎秒2,570m<sup>3</sup>であり、このうち、毎秒260m<sup>3</sup>を貯留しました。この結果、大渡ダム下流の低い土地の浸水被害を軽減したのと思われます。

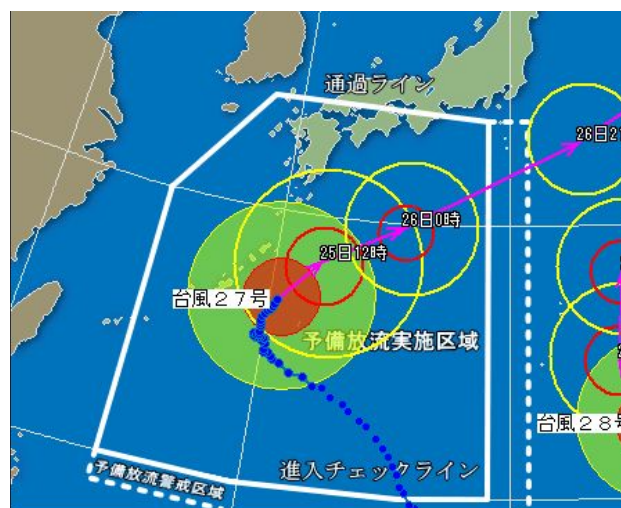
## 4. 大渡ダムの洪水貯留による水位低下効果(推定)

○越知地点(越知町役場裏) 約0.3m

○伊野地点(一般国道33号仁淀川橋上流) 約0.1m

※上記の水位低下効果は、最大洪水貯留量が各地点で効果を発揮したものと推定しています。

※今回のデータは速報値であり、変更になる場合があります。



【10月25日3時頃の状況】((財)日本気象協会提供) 【台風27号の経路】((財)日本気象協会提供)

# 台風27号における大渡ダム防災操作(洪水貯留)状況

